

前回協議会における調査票に対する委員意見一覧

No.	調査名	設問No. (7/11案)	調査票(当初案)に対する委員意見	調査票(最終案)における対応方針	設問No. (9/12案)
1	調査 ～ 調査		選択肢を選ぶ数について、「1つに 」は問題ないと思うが、「いくつでも 」、「3つまで 」などがある。これはどのような使い分けなのか示されたい。	調査 ～ の共通ルールとして次のとおり設定する。 1 基本的には「1つに 」 2 実態把握をしたい場合は「いくつでも 」 3 回答者のニーズ・要望を把握したい場合は「2つまで 」、「3つまで 」として重み分けをする。ただし選択肢の数により、2(8肢程度)と3(9肢以上)を使い分けることとする。	
2	調査 調査		配布数の考え方について明確にしてほしい。	資料2「3 標本調査の配布数の算出について」に記載のとおり	
3	調査	問1-1	「働きたいけれども職場がない」、「仕事が少ない」という趣旨もくみ取れるような設問設計としてもらいたい。	選択肢に「仕事をしたいが、条件が合う仕事が見つからない」、「特に仕事をしたいとは思わないので、していない」を追加する。	問1
4	調査	なし	「毎日入れ歯の手入れをしているか」という設問が削除されているが、歯の手入れは誤嚥性肺炎等との密接な関係があるため、予防という観点から復活してもらいたい。	設問を復活させる。	問17-1
5	調査	問31	高齢者保養施設利用助成の内容が分かるように注釈を付けられたい。	高齢者保養施設利用助成に関する注釈を追記する。	問31
6	調査	問34	認知症に関するイメージを聞くのならば、設問設計を見直されたい。	設問内容を修正する。	問35
7	調査 / 調査	なし	生きがいの有無についての設問は削除しないほうがよいのではないか。 同様の設問を調査 においても同様の設問を設定してはどうか。	調査 について、設問を復活させる。 調査 について、設問を新設する。	問32 / 問22
8	調査	問35	介護者支援策に関する設問の選択肢に、「介護者に対する定期的な情報提供」だけでなく、「介護者自身が能動的に情報を取ることに」に関する選択肢が必要ではないか。	選択肢に「介護等に関する情報へのアクセスのしやすさ(探しやすさ、わかりやすさ)」を追加する。	問36
9	調査		調査 の調査対象に居宅介護支援事業所も入れてもらいたい。	調査対象に居宅介護支援事業所を加え、問1(1)(2)の選択肢に「居宅介護支援事業所」を追加する。	問1(1)、 問1(2)
10	調査	なし	「東京都福祉サービス第三者評価」の認知度について尋ねてみてはどうか。併せて注釈文もあると、事業の普及につながるのではないか。	設問を新設し、注釈文も追記する。	問14
11	調査	なし	「災害時の体制について」に関連して、感染症に関しても周知活動の一環として設問設計していただきたい。	見出しを「災害等」に修正し、「感染症防止のためにしていること(自由記述)」を新設する。	問34
12	調査	問35 ～問38	「ヒヤリハット報告書」は一般的な言葉なのか。医療分野では「インシデントレポート」と表現するが。	「ヒヤリハット報告書(インシデントレポート)」という表現に修正する。	問37 ～問40
13	調査 / 調査	問19 / 問27、28	「80%台～100%」など、割合を求めているが、回答者はこの数字を算出することは難しいのではないか。	「%」表記を削除する。	問20 / 問27、28
14	調査	なし	「自立支援に向けたケアプランの作成状況」を削除しているが、自立支援は介護保険の核となる部分なので設問として残されたい。	設問を復活させる。	問33、 問33-2
15	調査		医療機関の医療従事者の手に確実に渡るよう、こちら側が指示したほうがよいのではないか。	1ページ目の表紙に、医療機関と回答者を対応させる文言を表示する。	
16	調査	問16	医療機関は患者として来る方の層がバラバラであり認知症の方の割合が異なるため、回答結果を集計してもあまり効果がなく、また、割合を算出することも難しいのではないか。	選択肢方式へ変更する。	問16